

# 神戸大学附属図書館の取り組み

跡部 史浩（神戸大学大学院人文学研究科）

# 図書館所蔵資料の概要

- ◆ (1) 貴重書・特殊コレクション

寄贈資料、図書館による購入資料など約7万点

→写真撮影、補修（リーフキャスティング）、ヨミの付与

8月 若林泰（ゆたか）氏収集史料の一部を公開

- ◆ (2) 新聞記事文庫

神戸高等商業学校調査部（1912年）以来、昭和45年までの切抜帳

→翻刻：4,601件／公開待ち1,474件

- ◆ (3) 震災文庫

# 附属図書館震災文庫

- ◆ 1995年1月17日 兵庫県南部地震（最大震度7、M7.3）  
神戸大学：学生39名、教職員2名が死亡 負傷者600人弱  
神戸商船大学：学生5名、研究員1名が死亡  
図書館：書架の転倒、蔵書落下（約100万冊）
- ◆ 震災文庫の開室（稲葉05）  
1月30日 通常業務再開 → 4月～震災に関する資料収集  
7月 収集資料リストの公開 → 10月30日 一般公開  
所蔵点数約5万6000点 電子公開約1万2000点 （23年末時点）



「1階開架閲覧室、床置き書架の倒壊（頭繋ぎ処置有り）、資料下敷き」（震災文庫蔵、神戸大学附属図書館制作、CC BY4.0）  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100047667>





右：震災文庫 左：チラシなどを収蔵しているキャビネット

## i サンテレビ取材映像の受け入れ

- ◆ 震災当時はポートアイランドに本社を置き、社員も被災  
給水、交通機関の情報など「生活情報」をテロップで報道
- ◆ 震災文庫、人文学研究科は2020年より取材映像公開に取り組む  
→肖像権が課題：公表による被撮影者の「社会生活上の受忍の  
限度」を「総合考慮」する必要がある  
⇒デジタルアーカイブ学会「肖像権ガイドライン」を参考に、  
デジタルアーカイブでの公開／館内端末での閲覧を判断

開始		終了		1 社会的地位	2-1 種類	2-2 立場	3 撮影場所	4-1 写り方
△	▽	△	▽					
1	41	1	44	0	20	-10	-10	-10
1	54	2	4	0	20	-10	-10	-10



### <肖像権ほか公開可否の検討>

「被撮影者の社会的地位」（公人、一般人）、「活動の種類」（公開イベント等）、「立場」（業務、私生活）  
「撮影の態様」（アップ、不鮮明、多人数等）ほか、全9項目により点数化

⇒ **0点以上～**：デジタルアーカイブにて公開／**0点未満**：震災文庫の端末のみで閲覧

### <動画内容の記述>

2024年度より、サンテレビと協議のうえ各動画の撮影地点、「内容記述」欄を神戸大学側で対応  
内容を「／」で区切り、キーワード的に記入：検索時のヒット／人員交代を見据えて

例) 動画「神戸・ポートアイランド液状化現象」 (<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100475657>)

“液状化した道路に沈んだ自動車/バックするトラック/注意呼び掛けるパトカー...”

⇒今年度：1995年1月19～21日分を受け入れ／19、20日分（180件）公開待ち ＊一時館内閲覧のみ



## ii 未整理・未配架資料



- ◆ 退職教員の寄贈資料を中心に多数の未整理、未配架資料が残る  
未整理分の目録作成、整理済み分の目録、現物の照合



### iii 新規寄贈資料の受け入れ

- ◆ 発災30年にあたり、書籍・写真等の寄贈が相次ぐ

新規登録：172件

利用者：学内194人 学外445人（4～12月末）＊例年平均約300人

→寄贈受け入れと一部電子化、撮影者の聞き取り等

### iv 震災30年をとらえたイベント参加・実施

寄贈や利活用の活性化を図る→参加者などから寄贈、相談



令和6年度資料展「阪神・淡路大震災30年 あの日の神戸」





兵庫県立歴史博物館

特別展「阪神・淡路大震災を伝える・知らせる

— 情報と通信の1990年代 —」への協力

(吉川圭太・人文学研究科講師)

\*会期：2025年1月11日～3月16日



# 「利活用」に関する課題



## i 写真・音声・動画資料

- ◆ 災害時の写真や動画、音声資料が持つインパクト

⇔ (吉川20 P.30)

「例えば展示でA小学校避難所の写真が必要だとしたら、それが写り込む写真を渉猟し個々の写真を「素材」として使うことが常であって（中略）その写真群の全体にまで気をとめることはそれほど多くない」

→単なる「素材」としての利活用に対する警鐘

## i 写真・音声・動画資料

- ◆ 震災文庫：背景情報のある資料群と、そうでないものが混在

例) 谷通好氏 撮影写真・映像

神戸大学最寄り駅である阪急六甲駅～ＪＲ六甲道駅付近が多数

→六甲道駅は被害から有名／写真・動画のみでは埋没しかねない

- ◆ アマチュア無線に関心、人命救助に関わる活動も
- ◆ 灘区在住／アマチュア無線家によるボランティア団体拠点も近い

⇒上記の情報は写真・動画に付されず

寄贈者・作成者の聞き取り、「注記」「内容記述」欄等の充実



「地震発生直後の自宅ベランダから南西方向距離200メートルの猛火を見る。震度7烈震で揺れたため、倒壊・大破が多数発生した。」  
(谷通好撮影、神戸大学附属図書館制作、CC BY 4.0) <https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100054885>



「駅舎・高架橋の倒壊したJR六甲道駅。」（谷通好撮影、神戸大学附属図書館制作、CC BY 4.0）

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100054891>



## i 写真・音声・動画資料

- ◆ メタデータ充実のための聞き取りは必要だが...
- ⇔ 震災当時の、あるいは資料にまつわる体験や記憶を語る、公開することに対する被災者・寄贈者の多様な意向、資料群の取り扱いには柔軟な対応が必要
  - ・ 関東大震災以来の災害として、記録に残すべきと考えた
  - ・ 当時写真を撮らなかったことに関して悔いはない／当時の体験は個人的な関係の中であれば話せる

## ii 資料群としての活用

- ◆ 独自分類による受け入れ順の配架  
時系列的な関心の推移の把握、職員による配架が容易  
⇔一部を除き「資料群」としての利用が難しい
- ◆ たとえば、教員による収集資料は問題関心や、社会活動との  
関連付けが利活用においては重要  
成果物については岩崎信彦氏により集計が図られるも、  
全容把握には至らず？／成果物以外の発言、社会的活動

## iii 活用事例の収集と発信

- ◆ 震災資料の利活用方法は人文・社会科学においても多様  
例) (高森15) 同一アングル写真撮影による、撮影者の背丈、  
カメラの構え方などを想起する「身体感覚」への注目
- ◆ 活用事例の図書館側の収集→発信→利活用のサイクル  
レファレンスの充実、利用者が求めるメタデータ内容の検討

# 主要参考文献・ウェブサイト等

- ・ 稲葉洋子『阪神・淡路大震災と図書館活動 神戸大学「震災文庫の挑戦」』（WEプロデュース、2005年）
- ・ 岩崎信彦『神戸大学教員の阪神・淡路大震災に関する研究・調査の成果一覧』（震災文庫蔵、震災-8-430ほか、2003年）
- ・ 佐々木和子「サンテレビ震災報道映像の公開」（『Link』13、2021年）
- ・ 佐々木和子「阪神・淡路大震災映像への肖像権ガイドライン適用の実践：神戸大学震災文庫での公開にむけて」（『デジタルアーカイブ学会誌』Vol.7 No.3、2023年）
- ・ 高森順子「写真をめぐる新しい「災害アーカイブ」のかたち 「開かれた」災害アーカイブ活動の可能性」（『復興』13号、2015年）
- ・ 花崎佳代子・松村友花「震災文庫25年間の歩みと今後の課題」（『大学図書館研究』117、2021年）
- ・ 吉川圭太編集・制作『阪神・淡路大震災を撮る 大木本美通追悼写真集』（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、2019年）
- ・ 吉川圭太「阪神・淡路大震災の記録と記憶の継承に向けて―大木本美通氏の記録写真を通して―」（『Link』12、2020年）



# 主要参考文献・ウェブサイト等

- ・ 神戸大学附属図書館「若林泰氏収集文書」 [https://lib.kobe-u.ac.jp/da/wakabayasi\\_yutaka\\_collection/](https://lib.kobe-u.ac.jp/da/wakabayasi_yutaka_collection/) （最終閲覧：2025年1月23日、以下同じ）
- ・ 神戸大学附属図書館 新聞記事文庫 <https://lib.kobe-u.ac.jp/da/np/>
- ・ サンテレビ「震災報道の記録」 <https://www.sun-tv.co.jp/shinsai/hd-eq100.html>
- ・ 谷通好「阪神・淡路大震災における非常通信「災害救援通信」を体験して」（震災文庫蔵、震災-14-v20）
- ・ 谷通好氏撮影写真（すべて震災文庫蔵、個別のURL等はスライドを参照）

※当日アニメーションで提示した画像を個別スライドにするなど一部変更を加えています（報告者）

ご清聴ありがとうございました